推薦の言葉

藤盛勇紀

明日館で開催された廣瀬薫先生の公開講座が『良く生きる手がかり』として出版され、この度シリーズ第2巻の刊行となりました。『羽仁もと子著作集』を通してみ言葉の深みに触れる恵みが、こうしてより多くの方々と分かち合えるようになりますことは、日本のキリスト者の信仰生活と教会形成のための大きな益となることでしょう。

私が初めて廣瀬薫先生とお会いしたのは、日本キリスト教連合会（日キ連）の常任委員会でした。当時廣瀬先生は日本同盟基督教団の総主事、私は日本基督教団の総務幹事として委員会に席を並べていました。日キ連の常任委員会のメンバーは、カトリック、聖公会を含め、各教団の主に事務部門に責任を持つ方々で、私たちも教会の担任を離れていました。しかし、廣瀬先生の寛容で柔らかなお人柄には、祈りの人が現れ出て、委員会での発言や会話の中にも、伝道への熱い想いが隠れようもなく滲(にじ)み出ておられました。

廣瀬先生は東京基督教大学を擁する東京キリスト教学園の理事長となられ、日キ連の常任委員も引き続き担われましたが、私の方は富士見町教会に招聘されて、牧師の生活に戻ることとなりました。富士見町教会は羽仁もと子が長老を務めた教会で、また創立者の植村正久牧師は羽仁吉一、もと子夫妻の信仰の師であり、自由学園の開校にあたっても植村牧師の協力を得るなど、信仰的に深いつながりがあります。

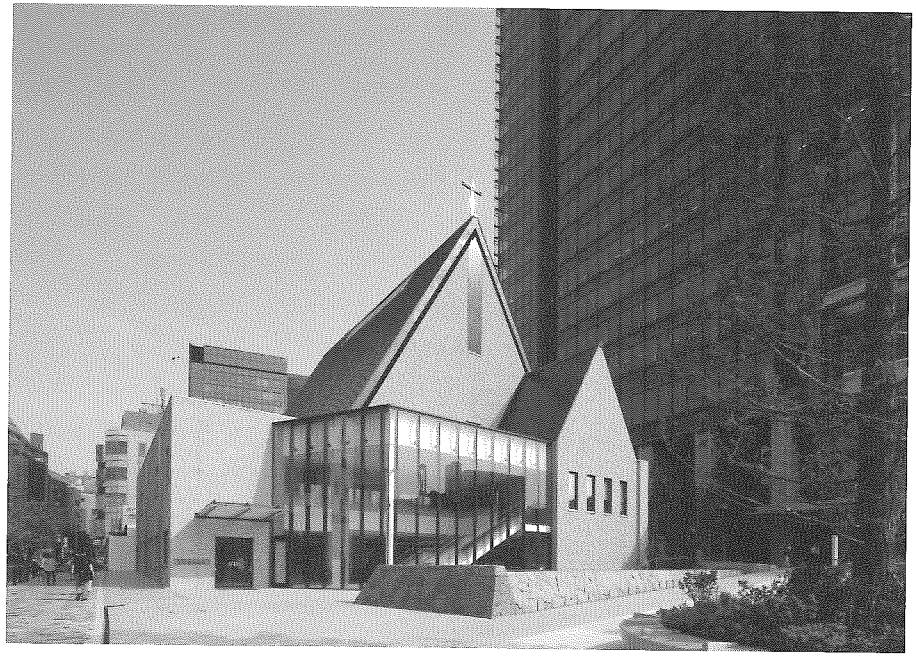
羽仁もと子の信仰の特徴は、友の会のモットー、「思想しつつ、生活しつつ、祈りつつ」に良く表されていると言われます。また、シリーズ『日本の説教 6』（日本キリスト教団出版局）の中で、自由学園卒業生の深田未来生先生が、羽仁もと子の説教について、「生活に生きる言葉を語った」「生活の中で信仰を語った」とも語っておられます。

こうした羽仁もと子の信仰の特徴を、自由学園の教育理念「生活即教育」になぞらえて言うならば、「生活即信仰」と言えるのではないでしょうか。「生活と信仰」とはよく言われることですが、信仰が生活となり生活が信仰となる、その

ように「生きられる信仰」こそ、廣瀬先生が多くの方々と分かち合いたいと願っておられる恵みなのではないかと思います。本書は、それを願う方々にとって、まさに良く生きていただく手がかりとなるに違いありません。

プロフィール

1962年、埼玉県越谷市に生まれる。
システムエンジニアから献身。
1993年、東京神学大学大学院を修了後、
茨木教会、藤沢北教会牧師、
日本基督教団総務幹事を経て、
2014年4月より富士見町教会牧師。



日本基督教団富士見町教会